

令和元年度第1回幕別町創生総合戦略審議会議事録

1 開催日時

令和元年7月29日（月）18:30～20:00

2 開催場所

幕別町役場3階会議室A・B

3 出席委員（16名）

中田委員、藤原委員、加藤茂樹委員、岩谷委員、大槻委員、宮田委員、高道委員、山本委員、土橋委員、仙北谷委員、細谷地委員、加藤リエ委員、堀委員、堀川委員、大山委員、森田委員
※森委員、佐々木委員、房川委員、鳥井委員は欠席

4 審議

- (1) 幕別町の人口動態について
- (2) 幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について
- (3) 令和元年度地方創生推進事業について
- (4) 次期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について

5 事務局出席者

幕別町企画総務部長	山岸 伸雄
〃 政策推進課長	谷口 英将
〃 政策推進課副主幹	中田 周呼
〃 政策推進課副主幹	西明 正博
〃 政策推進課副主幹	佐々木哲也

6 傍聴者

2名

7 議事録

(政策推進課長)

定刻となりましたので、ただいまより、令和元年度第1回幕別町創生総合戦略審議会を開会いたします。

議事に入る前に、事前にお配りしております資料を確認させていただきます。

資料1-1から資料5まで用意しておりますが、資料が無いという方はいらっしゃいますでしょうか。もし無ければ事務局へお声かけください。

なお、本日、森委員、佐々木委員、房川委員、鳥井委員から欠席の連絡がありましたので、ご報告いたします。

それでは、ここからは藤原会長から、議事の進行をお願いいたします。

(藤原会長)

それでは、議案に入らせていただきたいと思います。

議案第1号、「幕別町の人口動態の概要」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料1-1「平成30年度幕別町の人口動態の概要」をご覧ください。

平成30年度末の総人口は1の「直近10年間の年度末人口」の一番下の欄に記載しているとおり、26,716人となっています。昨年度と比較すると221人減少しており、平成27年度からは毎年約200人近く減少している状況です。

出生数と死亡数の増減である自然増減は、145人減と過去10年で一番大きい減少数となっています。また、転入数と転出数の増減である社会増減は70人減と減少傾向にあります。

続いて、2の人口ビジョンの推計値と実際の人口数との比較の欄をご覧ください。

(1)の地区別で見ると当初推計した人口とほぼ同じ人数で推移しているが、(2)の年齢別で見ると、65歳以上の老年人口は推計よりも増えている一方、0～14歳の年少人口、15～64歳の生産年齢人口とも推計値を下回っており、少子高齢化が想定以上に進行している状況がみられます。

続いて裏面をご覧ください。

3は高齢化率の状況を示したものです。

平成30年度末時点での町の高齢化率は32%と前年度の31.3%を上回っており、年々高齢化率が増加傾向にあります。地区別では幕別市街地と幕別札内農村地域がともに40%を超えている状況です。

4の自然動態は先程説明したものを地区別に整理したものです。

いずれの地区でも自然減となっており、忠類農村地域では出生数がゼロとなっています。

参考資料として、「合計特殊出生率の推移」を配布していますが、平成30年度は、合計特殊出生率は1.412と昨年度よりも0.16上昇したところです。その原因としては、出生数が増加した一方、女性の数が減少したことが挙げられます。

最後に5の社会動態は転入元と転出先を主な住所別及び年齢ごとに整理したものです。

社会減の傾向は昨年度と大きく変わらず、札幌市への転出及び15歳～24歳の社会減が多い特

徴となっている一方、昨年度よりも社会減は抑制されています。

続いて、幕別町の人口がどのように変化してきたのか、また現在どのような状態にあるのかを把握するとともに、その現状を分析したので説明します。

資料1-2「幕別町の人口の現状分析」をご覧ください。

本資料は総人口の推移はもとより、自然増減や社会増減などの状況を様々な視点からまとめたものとなっています。

特徴的な事項を中心に説明します。

まず、1の「現行の人口ビジョンと社人研推計との比較」をご覧ください。

こちらは、平成25年と平成30年に国立社会保障・人口問題研究所が発表した幕別町の人口推計と平成28年1月に策定した「幕別町人口ビジョン」を比較したものです。幕別町人口ビジョンでは平成25年に研究所が公表した数値よりも上回る人口で推移しており、昨年、研究所が公表した推計では町の人口ビジョンを上回る人口で推移すると見込まれていることから、策定時とは異なる傾向であることがわかります。

続いて、4の「住民基本台帳人口における年齢3区分別人口の推移」をご覧ください。

合併後以降の町の年少人口、生産年齢人口、老年人口別の推移をみると、年少人口及び生産年齢人口が減少傾向にある一方、老年人口は増加傾向にあり、平成28年度には高齢化率30%を超えています。また、昨年度は老年人口のうち75歳以上の人口が半分以上を占めており、この傾向は続くものと推察されます。

続いて、6の「自然増減（出生数・死亡数）の推移」をご覧ください。

こちらは昭和55年からの幕別町の自然動態の推移を整理したものです。棒グラフの左側が出生数、右側が死亡数、折れ線グラフが合計となっています。平成17年度以降は自然減の状態が続いており、近年は自然減の数も増えている傾向にあります。

続いて、8の「母親の年齢階級別にみた出生数の推移」をご覧ください。

母親の年齢階級別にみた出生数の推移をみると、母親の年齢が30歳代、40歳代以上は減少傾向が続いている一方、20歳代の出生数は増加傾向にあります。

続いて、10の「平均寿命の推移」をご覧ください。

平成12年以降の男女別の平均寿命の推移をみると、幕別町は男女とも年々伸びており、全国、北海道の平均を上回る傾向にあります。

続いて、11の「全国及び北海道の男性30～34歳及び女性25～29歳未婚者割合の推移」をご覧ください。

幕別町のデータはないため、全国と北海道のみのデータとなりますが、昭和45年以降の男女別の未婚者割合の動向をみると、男性よりも女性の未婚者割合が高い傾向にあります。直近の平成27年では男性30～34歳のうち約半数、女性25～29歳のうち約6割が未婚者であることがわかります。

続いて、12の「社会増減（転入数・転出数）の推移」をご覧ください。

こちらは昭和55年からの幕別町の世界動態の推移を整理したものです。転入数、転出数にはばらつきはあるものの、増減を繰り返しながら平成8年度までは増加傾向でしたが、平成10年度以降は減少傾向に転じており、近年は平成27年度以降、社会減の状態が続いています。

続いて、14の「社会増減（転入数・転出数）の時系列の推移」をご覧ください。

平成25年からの推移をみると、10代、20歳代及び40歳代において社会減の傾向にある一方、

他世代においては社会増の傾向にあります。

続いて、16の「幕別町への住所地別転入数・転出数の推移」をご覧ください。

札幌市へは転出超過の傾向にある一方、帯広市、音更町、芽室町を除く十勝管内市町村からは転入超過の状況となっている。

続いて、18の「十勝管内市町村別の社会増減（転入数・転出数）の状況」をご覧ください。

平成30年12月末時点の十勝管内市町村別の社会増減の状況をみると、上士幌町及び豊頃町を除く市町村において、いずれも転出超過となっています。

続いて、19の「十勝管内市町村別の昼夜間（ちゅうやかん）人口及び人口比率の状況」をご覧ください。

こちらは就業者または通学者が従業・通学している従業地・通学地による人口である「昼間人口」と調査時に調査の地域に常住している人口である「夜間人口」を比較したものです。折れ線グラフは、夜間人口100人当たりの昼間人口の割合である昼夜間人口比率を示したのですが、これは100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示しています。

幕別町は86%と管内で最も低く、日中は近隣市町村へ通勤・通学している人口が多いことがわかります。なお、管内では士幌町が最も高い状況です。

続いて、20の「男女別及び産業別就業者数」をご覧ください。

こちらは、幕別町の平成27年の男女別及び産業別就業者数を整理したものです。

町内では、農業、建設業、製造業、卸売業及び医療、福祉に従事する方が多い傾向となっています。

続いて、22の「外国人人口の状況」をご覧ください。

平成28年度まではほぼ同数で推移していましたが、平成29年度以降急激に上昇し、平成30年度には100人を超えている状況です。

その内訳を記したものが23の「国籍別の外国人人口の推移」となっています。

近年はベトナムの増加が著しく、平成30年度では人口数でも1位となっています。

最後に、24の「現状・課題と今後の方向性（案）」をご覧ください。

これまで分析した人口動態の特徴などをもとに、総人口、自然増減、社会増減、年齢3階層別人口の4つの観点から現状と課題をあげ、今後の方向性をまとめたものです。

総人口の観点からは、十勝管内市町村において人口減少にあることから、十勝管外あるいは道外からの移住・定住者の増加を目指しながら、できる限り人口総数を維持できるような施策が必要と考えています。

自然増減の観点からは、20代、30代の未婚者割合が増加傾向にある中、30歳代以降の出生数が減少傾向にあることを踏まえ、結婚や出産を希望する方が安心して生活できる環境を整えることが必要です。

社会増減の観点からは、子育て世代を中心に近隣自治体の中でも人々に選ばれるまちとして町の魅力を高めるとともに、若い世代が再び地域に戻り、住み続けられる環境を整備すること、また、急増する外国人が地域で安心して暮らせるよう、多文化共生社会を構築することが必要と考えています。

年齢3階層別人口の観点からは、平均寿命が伸びる中で社会保障費の増加や地域活の担い手の減少など地域に及ぼす影響をできる限り緩やかになるよう、施策の取り組みが必要です。

説明は以上です。

(藤原会長)

ただ今、議案第1号について説明をいただきました。この中でご質問、ご意見などありますでしょうか。

(堀川委員)

先程、町の人口ビジョンが策定時とは異なる傾向であることがわかったとの説明がありましたが、どういった施策が功を奏したと考えているのかお聞かせいただきたいと思います。

それから、資料1-2の11の男性30歳から34歳、女性25歳から29歳の未婚者の割合についてですが、幕別町のデータは無いとの説明がありましたが、町内の未婚の母親の数、それからシングルマザーがどのぐらいいるかわかれば教えていただきたいと思います。

なぜかと言いますと、24で自然増減の項目の現状・課題の中で、0歳から4歳児以降が減少傾向にあると記載がありました。恐らく、ご家族をお持ちの世帯も多く幕別町に引越しされていると思われるが、やはり幕別町で仕事があって、暮らし始めてから結婚・出産と進んでいくのが理想かと思います。今後の方向性になると思いますが、その辺りについてもう少しお考えがあれば伺いできればと思い、質問させていただきました。

(事務局)

まず、人口ビジョンの推計値に関することについてですが、当初、町が推計した人口推移と平成30年に公表された社人研による人口推移はほぼ同じ推移になっていますので、人口ビジョン策定時に立案した施策が概ね功を奏していると思います。また、社人研が平成25年に推計したときは、合計特殊出生率を高めを設定していたことから、このような人口推移になったと考えています。

2つ目の未婚の母親の数やシングルマザーの割合に関するデータは手元にはございません。

なぜこのデータを説明したかと言いますと、過去に出生数が増えていた時代と、今の時代の子育てに関する考え方や環境が違っていると感じるからです。若い人達は結婚をして子どもがいなくてもお互いが生活できる環境があれば良いという方もいます。その方々に対して、我々が子どもを産むよう強制することはできないですが、何とか子どもが欲しい、家族を増やしたいという方の思いはできるだけ汲んであげて支援する取組は、これまでも行ってきましたし、これからも必要だと思っておりますので、その出生数を増やす施策が必要になると考えています。

ただ、20代、30代の男性・女性の未婚者の割合が増えている傾向は、今後も同じように推移していくと予想されますので、当然、出生数も減っていく傾向にあると思います。

それを踏まえまして、先程の出生数の0歳から4歳人口が減少傾向にあるのはそういったことに繋がっていることを示すためにこのデータを持ち出しました。また、個人の考え方やライフスタイルがどんどん変化する中、女性の方々が就職して活躍することが当たり前となる一方、子どもを持つことがなかなか難しいという問題も出てくるとおもいます。そういった方が安心して仕事をしながら暮らせる施策は、町としてもしっかり取り組んでいますので、そういった方々の思いも叶える取組は今後引き続き行っていきたいと思っております。

(藤原会長)

その他何かございますか。

(傍聴者)

十勝総合振興局地域政策課の小長谷と申します。本日、委員の鳥居が欠席と言うことで、鳥井から言付かってきた事項がありますので、お伝えさせていただきます。

現在、十勝総合振興局では、若年女性、特に20代前半の女性の十勝管内からの流出を重要な課題として取り上げ、庁内で人口減少問題に関する検討会を行っています。

今回の資料で年代別の流失について説明がありましたが、男女比についても分析はされていませんでしょうか。

(事務局)

社会動態に関する男女比の動向に関しては、データとして押さえていませんでした。十勝管内の女性の流出の傾向が高いというご指摘がありましたが、幕別町でも同じような傾向にあると思いますので、しっかりデータを把握しながら分析してまいります。

(藤原会長)

その他何かございますか。

(堀委員)

11番の男性と女性の未婚者割合の推移についてですが、男性は30歳から34歳、女性は25歳から29歳で比べたことは何か理由があるのでしょうか。

(事務局)

この年齢を中心として結婚する方が高かったため、このデータを含めました。

(藤原会長)

その他何かございますか。

ご質問などないようですので、議案第1号につきましては終了させていただきます。

続きまして、議案第2号「幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証」について説明をお願いします。

(事務局)

資料2-1「幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況（平成30年度末時点）」をご覧ください。

こちらは、平成30年度末時点の幕別町の創生総合戦略の進捗状況をまとめたものとなっています。太字は進捗率100%の以上施策目標、朱書きは進捗率50%未満の施策目標となっています。

基本目標2の移住・定住、観光施策の分野、基本目標3の結婚・出産・子育ての分野及び基本目標4のまちづくりの分野では数値目標を達成している施策も多く、効果的に事業が行われていると推察されます。一方、基本目標1の産業振興や雇用の分野においては、他の基本目標

と比較すると進捗率が低い施策が散見されることから、この分野での事業の見直しや新たな施策に関する検討が必要と考えています。

資料2-2「幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成30年度実績報告書）」は、昨年度に総合戦略を推進するために行った事業の実績と効果検証、また、今年度実施予定の事業をまとめたものです。こちらの説明は、時間の都合上、割愛させていただきます。

最後に、資料2-3「幕別町まち・ひと・しごと総合戦略KPIの検証状況」をご覧ください。

こちらは、資料2-1で説明した進捗状況について、総合戦略開始時から現時点までの推移をまとめたものです。

2ページをご覧ください。

総合戦略で設定している50の施策目標の進捗率を進捗率に応じてA～Dに区分したものです。全体で見ると100%以上の進捗率であるA区分は50%、続いて50%以上100%未満のB区分が38%と施策目標のうち、約9割が進捗率50%以上を達成しています。

また、基本目標ごとみると、基本目標1の産業振興と雇用の分野で1%以上～50%未満のC及び0%のDの占める割合が約3割と進捗率が低いことから、産業振興と雇用分野での更なる振興が必要と考えています。

説明は以上です。

（藤原会長）

議案第2号について説明をいただきました。ご質問、ご意見などありますでしょうか。

ないようですので、第2号議案につきましては終了させていただきます。

続きまして、議案第3号「令和元年度地方創生推進事業」について説明をお願いします。

（事務局）

今年度実施する地方創生推進事業をまとめたものであります。

まず、「図書館を核とした活字と笑いで活気あるまちづくり事業」について説明します。

資料3-1をご覧ください。

今年度で最終年度となる本事業の重点事業は、これまでモデル的に実施してきたARの事業の本格運用です。現在、ふるさと館や蝦夷文化考古館にある資料をデータ化し、図書館所有の郷土資料とリンクするための作業を随時行っています。全ての資料を紐づけするには次年度以降も時間がかかりますが、ARの普及とその効果を町民の方々にも理解いただくよう、一定程度まとまった段階で年度内に公表する予定としています。

その他の主な事業としては、昨年度に引き続き、落語界の開催や平田オリザ氏を講師に招き、演劇の手法を用いたワークショップを町内の小中学校で実施する予定です。

続いて、「アスリートと創るオリンピックの町創生事業」について説明します。

本事業は今年で2年目となります。昨年度は町内で初めてスポーツ合宿誘致に関する官民連携組織を設立、慶應義塾体育会野球部の合宿誘致に成功し、今後の町内でのスポーツ誘致や入の対応などについて実践と検証を行ったところです。

また、オリンピックの町ワークショップを開催し、スポーツを軸とした町の施策に対する意見を無作為抽出で選出した町民から聴取する新たな取組を実施するなど、オリンピックのまちを標榜する町にとって、大きな実績を残したところです。

今年度は、オリンピックのまちとしての認知度をさらに高めるとともに、来年開催される東京オリパラに向けた機運醸成を図ることを目的として、車いすラグビー日本選手権予選会を誘致し、先週 26 日、27 日に開催しました。また、オリンピックの功績などを紹介する展示スペースを設営し、子供たちが将来への夢や希望を抱く機会を与えるとともに、交流人口の拡大や地域のPRを行う予定です。

また、現役オリンピックと町民との交流イベントの開催や今年 1 月に連携協定を締結した日本体育大学との連携し、部活動・少年団の指導者を対象とした研修会を実施することとしています。

説明は以上です。

(藤原会長)

議案第 3 号について説明をいただきました。ご質問、ご意見などありますでしょうか。

(中田委員)

オリンピックの町創生事業についてお伺いします。先程の資料2-1の中でスポーツ合宿・大会誘致に受入者数に関する施策目標は100%の進捗状況でしたが、今後、幕別町でのスポーツ合宿について対外的にPRするような事業を考えてはいかがでしょうか。

(政策推進課長)

合宿の誘致に関して、今週 8 月 2 日から幕別町に慶應大学野球部が合宿に来られます。昨年度はモニター的な形で提供させていただきましたが、受入体制としては実行委員会を立ち上げさせていただいて対応している状況です。

ご提案いただいた内容につきましては、やはり住民の方々が主体となって進めていくことが必要と考えています。スポーツ合宿を広く誘致活動をされている自治体においては、住民の方々がお世話や応援するといった活動が多いと考えています。

そういった意味では、幕別町はそこまでの機運にはなっていないのかなと思います。昨年からは始まったばかりの事業でありますので、今後、広く合宿の誘致や受入するに当たっては住民の皆さんの自主的な活動やボランティア活動を踏まえ、取り組んでいくことが必要だと考えています。

いずれにしても、今年度で 2 年目になりますので、今年度の課題などをしっかり検証して、次年度以降に繋げたいと思います。

(加藤茂樹委員)

資料2-1のスポーツの話が出ましたので、関連して伺いたい事がございます。

スポーツの指導者の雇用が 0 % のことでしたが、なかなかボランティアで指導される方も少なくなっている中だからこそ、指導者が必要かと思います。今後、オリンピックのまちを語るのであれば、もう少しボランティアとしてでも引っ張っていくような指導者がいてもいいのではないかという質問です。

(事務局)

平成30年度までは、スポーツ指導者の雇用は0人でしたが、今年度4月1日から札内スポーツクラブで新たに指導者を数名雇用したと伺っています。

(加藤茂樹委員)

スポーツの指導者が増えたということはわかりました。

今までの説明でも、忠類・札内・幕別全体を平均して説明していますが、地区別でも人口の転入・転出状況も違っていますので、地区ごとに個別の数を算出していただくと良いかと思えます。各地区においても個別の課題などがあると思えますので、そういったところにも目を向けていただきたいと思います。

(堀川委員)

図書館の事業の中で、ARの取組に関する説明がありましたが、我々が利用できるのはいつ頃になるのでしょうか。まだ準備中でしょうか。

(事務局)

まだ準備中です。

昨年度、図書館では、町内の小学生の方にARを使って図書館の図書を紹介する取組を行いました。ARアプリで本をかざすと子供達を読み上げて紹介するというものです。

専用のアプリをスマートフォンなどにインストールすれば、誰でも利用できる状況ではありますが、これを本格的に町民が利用できるようになるのはおそらく年度末になると思っています。

この図書館の事業は教育的な要素が強いものですから、まずは、歴史や郷土資料を収集して紐付けていくことが重要だと考えています。そこでARの手法をしっかりと構築した上で、観光など様々な分野で展開していきたいと考えています。

(堀川委員)

私が言いたかったことは、もしこれが成功すれば、観光分野やインフラ整備などにも繋げていただきたいということです。観光物産協会としては観光の幅広さを持たせることは願ったり叶ったりですので、ぜひ成功させていただきたいと思えます。

(藤原会長)

他に質問がないようですので、第3号議案につきましては終了させていただきます。

続きまして、議案第4号「次期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定」について説明をお願いします。

(事務局)

資料4「次期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定方針(案)」をご覧ください。

現行の総合戦略は平成28年1月に策定したところですが、今年度をもって計画期間の満了を迎えるとともに、引き続き人口減少対策と地方創生を推進するため、今年度中に次期総合戦略を策定する必要があります。

今後、次期総合戦略に向けて、創生総合戦略審議会において、基本的な考え方や作業過程を記載した策定方針を策定した上で、具体的な計画策定を検討していきたいと考えています。

2の次期戦略の概要をご覧ください。

(1)の位置づけは、現行の総合戦略と変わらず、人口減少社会への対応に資するため、各分野にまたがって特に重点的に取り組む施策を定め、優先的に実行するものとしています。

(2)の計画期間は、現在、国で検討している次期総合戦略の期間と整合性を図るため、2020年から2024年までの5年間としています。

(3)の基本目標は、先ほど説明した現行の総合戦略に掲げる4つの基本目標を引き継ぐものとしします。

(4)の基本施策と目標値については、現行の施策及び事業を基本としながら、創生総合戦略審議会で議論の上、現行の計画期間中での課題を洗い出し、施策内容の見直しや新たな目標値を設定することとしします。また、資料5の3ページに記載しているとおり、国の次期総合戦略策定に向けて検討している新たな視点も踏まえながら総合戦略の推進に取り組む予定です。

3の幕別町人口ビジョンについては、先程説明した、資料1-2の幕別町の人口の現状分析のデータをもとに直近のデータを反映させるとともに、現行の人口ビジョンには反映されていない外国人人口の動向なども盛り込みながら、今後の目指すべき方向性を示していく予定としています。

4の策定体制については、パブリックコメントによる町民参加はもとより、審議会での議論や議会との意見交換を行う予定です。

なお、具体的なスケジュールは、5の策定スケジュールで示しているとおり、本審議会は、今回の第1回を含め4回開催する予定です。来年2月中旬には本会議において最終審議を行い、3月中旬に議会への報告を経て、3月末に公表する予定です。

説明は以上です。

(藤原会長)

議案第4号について説明をいただきました。ご質問、ご意見などありますでしょうか。

(堀委員)

資料2-1の基本目標3で子育て支援取組事業所数が進捗状況0%となっていますが、事業所の中でも、子育て支援が必要な職員が増えた場合は、色々対応をしているのではないかと察するのですが、それが0%という評価だともったいない気がします。

次に策定する時の施策目標としては、事業所の数は増えていないけれども、対応には当たっている事業は評価するなど、評価方法なども検討いただければいいのではと思いました。また、事業所そのものについても、取組の進捗度合いがわかれば良いと感じました。

(藤原会長)

データの的には恐らく平成30年、令和元年になった頃から、働き方改革が非常に進み、事業所の子育てに対する取組も変わってきていると思います。その辺は、一度企業に育休などの取組がしっかりされているかどうか、アンケートしても良いと思いました。大事なことですよね。

先ほどARの話が出ていましたが、全産業でこういう手法を活用して、観光客や企業において

も利用者がどんどん増えて、幕別に住みたい人が増えていけば、非常に嬉しいと思っています。

(政策推進課長)

AR総じてICT、情報通信技術はめまぐるしい進歩です。図書館のARで非常に良い取組としては、そのARに取り込むデータの電子化に障害者の方を雇用して、その方々が一生懸命電子化しています。

藤原会長や堀川委員からも意見がありましたとおり、このARの話を我々が聞いたのが3年前ぐらいです。当然、観光分野はもとより、あらゆる分野に使うことが出来るだろうと想定しています。今後の運営体制や経費については次の課題としてありますが、まずは図書館の事業としてしっかり推進して地域に根付かせていくことが重要ですし、ゆくゆくはあらゆる分野で活用しながら幕別町の魅力を発信できればと考えています。

(仙北谷委員)

効果検証の関連でお聞きします。

資料2-1で数値目標とKPIがありますが、この数値目標を実現するためには、KPIを進捗率100%にしなければならないということだと思えますが、逆にKPIが全て100%になるとその数値目標が実現できるのかと言え、そういうことも言えないようなKPIもあるかと思えます。

そうは言いながらも、基本的にはKPIを100%に持っていけば数値目標が達成できるという考えで設定されているということでしょうか。

(事務局)

お見込みのとおりです。

当初のKPIの設定をした経過として、まず、基本目標は、国の基本目標に沿って作りました。

この基本目標を推進する事業を庁内で照会、取りまとめた後、その事業に関連するKPIや基本目標を設定しました。

ただ、設定当初と現在の環境を比較すると、今の時代に合わないKPIもありますので、今年度新たにKPIや数値目標を設定する際には、5年後さらにはその先どういった目標が必要なのか、今後、皆さんと検討していきたいと考えています。

(政策推進課長)

補足ですが、端的に言えば、KPIが上がれば当然数値目標も達成できると思えます。資料2-1の基本目標1で、「クラウドファンディング実用による事業化」というKPIがあります。これは、事業化のために一般の方から寄附をいただくものですが、このKPIの進捗率が上がったからと言って、数値目標である農業収入額や製造品出荷額、従業員数、事業所数が増えるかという、ご指摘のとおり、我々も疑義を感じているところがあります。

次期策定に当たっては、しっかり数値化できるような目標設定が必要と考えています。

(加藤茂樹委員)

今の質問と関連しますが、資料2-1で基本目標1の産業の振興と雇用の場をつくるということで、農業分野の目標は多くありますが、一方で商工業も多くありますので、次のKPIの数

値目標では商工業関係ももう少し設定した方が良いかと思えます。

農業分野は国の施策などの影響もあって収入も増えてきていると思いますが、長年町内で営業を続けている商工業の方もいますし、働き方改革などで商工会内部でも議論の対象となっていますので、ぜひご検討いただきたいと思えます。

(岩谷委員)

私は農家ですので農業のことしか言えないのですが、数値目標に農業収入額や製造品出荷額を掲げていますが絶対に年によって波がありますよね。台風が発生して大きな被害が発生したり、逆に天候に恵まれて出荷額が増えるなどあるかと思えますが、外的要因に左右されやすいものを数値目標やKPIを設定することにすごく違和感を感じます。

その辺、役場としてどのように考えているかお聞きしたいです。

(事務局)

ご指摘のとおり、当初、事業が効果的に推進できれば、KPIが上昇し、農業収入額や製造品出荷額も上がると考えていましたが、外的要因に左右されやすい目標に関しては、一概に施策のよし悪しで判断できないと感じています。

次期の総合戦略の目標設定においては、誰が見ても外的要因に影響を受けることなく判断できる数値目標を設定するよう、心がけていきたいと思えます。

(加藤リエ委員)

単に意見として述べますが、母親だけが子育てをするのではなく、お父さんと二人で子育てするのが理想的だと思います。当然、子育てするためには、先程話題にもありましたが、企業が支援していかないと、例えば、お仕事が終わらないと家庭に戻れない家庭もまだ沢山いると思えますので、その辺も考えて欲しいと思えます。

(政策推進課長)

今ご指摘いただいた事項なども含めて、委員の皆様には次期策定に向けて気兼ねなく議論していただきたいと考えていますので、よろしく願います。

(宮田委員)

基本目標4の中の認知症サポーター数ですが、進捗状況としては100%とサポーターも多く養成されていますが、一方で、全国的に言えることですが、サポーターが何をやるかというところがなかなかありません。

認知症カフェがありますが、一時のブームは去って下火になっています。実際に「安全・安心で快適な暮らしができるまちをつくる」という目標を立てるとしたら、この100%に達成した認知症サポーターが今後どう生かしていくということが重要な課題になると思えます。

その具体的なものをこれから策定する中で考えていただきたいと要望です。

(政策推進課長)

KPI全般に言えることですが、設定した指標が100%を超えて良かっただけではだめだと思

ます。ご指摘いただいたように、施策や個々の事業が幕別町にとってどのように繋がっているのか、重要課題にどのように還元されているのか踏まえつつ、その目標を考えていかなければならないと考えています。

(藤原会長)

他に質問がないようですので、第4号議案につきましては終了させていただきます。

以上で本日の議案については終了させていただきます。

事務局から何かありますでしょうか。

(事務局)

次回の審議会の開催ですが、10月上旬に2回目の会議を予定しています。詳細が決まりましたら、あらためて皆さんにご連絡させていただきます。次回の審議会では次期総合戦略の素案をお示ししまして、皆さんからご意見をいただきたいと思っております。

(会長)

事務局から説明がありましたように、大変ハードでタイトなスケジュールになると思いますが、幕別町が一層良くなるよう皆さんの力をお借りして実現したいと思っていますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。